じる主要幹線道路がすべて寸断され、一時、陸の孤島となった。磐越自動車道も津川－会津坂下間で通行止めに。そのほか、津川町の国道49号、三条市の国道289号など十数本の国道が土砂崩れで通行止めとなった。

犠牲者の8割が高齢者 避難支援のあり方が課題に

また、この新潟・福島豪雨で16人の尊い命が犠牲になった。そのうち13人が70歳以上の高齢者で、中には寝たきりや独り暮らしの方もいた。死因は約半数が溺死で、水かさが急激に上昇する中、必死で自宅2階に逃れようとしたり、外に逃げようとしたりしたところを、容赦なく濁流に呑み込まれたのである。高齢者等の避難支援のあり方が、課題として浮き彫りとなった。

高齢者の犠牲者が多いとコミュニティーに問題があったと思われがちだが、三条市等では豊かな地域コミュニティーが形成されていたものの、避難するための時間的余裕がなかったため十分に機能せず、多くの高齢者の方が亡くなったと考えられている。

また、高齢者対策と合わせ、避難勧告等の発令時期、発令基準、情報伝達のあり方等の課題が認識された。

水が引いた後、被災者の前に残されたのは、膨大な量の土砂とゴミだった。五十嵐川および刈谷田川の決壊によって、三条市内には延べ3000m³、中之島町内には延べ4万m³もの土砂が流れ込み、路面や住宅内に堆積。周辺から流出したと思われる棚や皿などの生活用品も散乱し、道路脇には使い物にならなくなった電化製品や家具などがうず高く積まれた。住民は、水浸しになり、すっかり変わり果てた自宅の姿に呆然としながら、浸水した自宅1階から箒（ほうき）などで泥をかき出し、家具の汚れを洗い流す作業に忙殺された。これらの土砂とゴミを合わせた災害廃棄物の発生総量は、約6万t（11万m³）にも達していた。

集中豪雨と堤防決壊による浸水・冠水は、新潟県経済にも大打撃を与えている。三条市に本社を置く大手暖房器具メーカーの本社社屋や工場も浸水。そのほか、金属・機械加工業者、繊維メーカーでも軒並み生産設備が浸水し、企業活動が完全にストップした。

豪雨による中小企業の被害は34市町村、2188事業所に及び、被害総額は330億円を超え、農作物も大きな被害を受けるなど地場産業に深刻なダメージを与えた。

【インタビュー】
INTERVIEW

私が語り継いでいかなければ…

～孤立した保育所で恐怖を感じた濁流の轟音～

新潟県中之島町　中之島保育所長
松井光子氏

新潟・福島豪雨で、刈谷田川下流の新潟県中之島町で堤防が決壊、周辺地域が浸水し、町立中之島保育所が孤立した。職員は児童を連れて２階に上がって難を逃れ、自衛隊のヘリコプターで救助された。その時の様子を松井所長に伺った。
松井所長は恐ろしい記憶を振り返ることに抵抗があり当初、気が進まなかったが、後世に語り継ぐべきと考え直してインタビューに応じたという。

●被災の時の様子を教えてください。

その日（7月13日）は午前中、お孫さんを迎えに来たおばあちゃんが「刈谷田川の水位が上がっていて危ない」と言って帰ったのを覚えています。町役場に問い合わせると、「大丈夫だ」と言われましたが、5分もたたないうちに再び電話があり、すぐに子どもたちを保護者に返すように言われました。受話器を置くやいなや、玄関の外を水が走るのが見えました。堤防が壊れたのは13時ごろでしょう。とにかく1階にいた子どもたちを2階へ上げました。ちょうど男性の方が2人、迎えに来ていたのですが、すでに帰れない状態で、児童を2階に上げるなど手伝っていただきました。緊急時に男手があったのは本当に助かりましたね。

●外部との連絡は?

30分くらいで電話は切れ、子機を持って2階に上がりましたが、これも使えなくなりました。携帯電話は何とか使えたので役場の事務局に連絡すると、「2階は大丈夫だから、しっかり保育してくれ。自衛隊のヘリを送る」という指示を受けました。

●ヘリが来たのはいつごろですか。

15時半過ぎです。浸水していない文化センターまで6往復してもらい、全員避難するまでに19時半ごろまでかかりました。自衛隊の黒服を子どもたちが怖がらないよう、「黒い人たちは正義の味方よ」「泣いてもいいからがんばろう」と言い聞かせました。そのころは携帯電話もつながりにくく、つながってもゴーゴーいう水の音で聞き取りにくくなっていました。

●建物などの被災状況はどうでしたか。

水が流れ込んできたときは、ガーッというものすごい音がしました。水というより泥の流れです。災害の後で調べると、水の高さは玄関の所で1.9mに達していました。ピアノも流され、丸太や家具が流れ着いてひどい状態でした。しかし、子どもたちも職員も無事だったのが何よりでした。保育所の復旧には4カ月ほどがかかりましたが、多くの方に助けられ、おかげで2005年1月に開園できました。中之島町の保育所は1階建てが多いのですが、ここだけは2階建てだったのが不幸中の幸いでした。

●この経験から、他の保育所へのアドバイスがあればお願いします。

今度の災害は本当に予測できないものでした。日々の仕事で忙しいとは思いますが、常に避難簿の整備や、安全に関心を持ち続けることは大切です。また、役所の事務局や近隣の保育所と意志疎通をよくしておくこと、そして地震、火災、不審者侵入、水害等のあらゆる災害を想定して、いろいろな対処方法を準備しておくことです。